

館林市立第四中学校 学校評価一覧表

(様式1)

自己評価 A:80%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満

羅 針 盤			方 策	自己評価①			自己評価②				
評価対象	評価項目	具体的数値項目		生徒	保護者	教師	改善策①	生徒	保護者	教師	改善策②
I 保護者との連携 教頭・教務	1 保護者への情報提供	①「学校や子供の様子が分かる」と答えている保護者が <u>80%以上</u>	①学校HP、ホーム&スクール、通知との併用による広報活動の充実を図る。校内の掲示物を整理し、生徒の活動を見える化していく。	78.6	94.0 A	100	2年生徒の意識の低さを解決するために、配布時に、何を配ったかの確認を行うとともに、通知目的を担当が口頭で説明する。	77.4	90.8 A	100	保護者に対して学校公開や学校行事への参加を呼びかけていく。また、学校の様子を学校だよりや学年通信等で、SNSと配付文書で発信していく。
		②連絡メールやたより、学校HPなどから必要な情報が得られている保護者が <u>80%以上</u>	②学校HP、ホーム&スクール、通知との併用による広報活動の充実を図る。	89.2	96.3 A	100	引き続き、保護者や地域と連携・協働していくために、ICTを活用し必要な情報を発信していく。またホーム&スクール未登録保護者に登録を促していく。	83.7	96.3 A	96.8	引き続き、学校の情報をSNSと配付文書を併用していく。また、生徒に対しては、配付文書を保護者にしっかりと渡すよう指導していく。
	2 保護者への対応・学校への信頼	③学校は、「相談しやすい」と感じる保護者が <u>80%以上</u>	③日常的に担当が心配な生徒の保護者と連絡を取り、保護者が気になることが生じたときに気軽に連絡できる関係を構築する。また、SC、SSW、相談員の相談体制について、生徒・保護者に定期的に周知する。	72.9	90.6 A	94.0	2年生徒の意識の低さを解決するために、学期はじめに口頭で相談体制を説明するとともに、相談窓口のポスターを2F廊下に掲示する。	72.9	90.5 A	100	相談体制について引き続き周知していくとともに、必要に応じてSCやSSWなどへの相談についても声かけをしていく。
		④学校に安心して子どもを送り出すことができると感じる保護者が <u>90%以上</u>	④必要に応じて電話連絡や家庭訪問を実施する。また、保護者からの相談に対しては、傾聴姿勢を基本とし、個人で判断せずにチーム対応をしていく。	82.1	97.3 A	100	引き続き、保護者や生徒の声に耳を傾けていく。そこで上がった意見を職員会議等で共有し組織的に対応していく。	88.3	96.3 A	100	引き続き保護者や生徒の声に耳を傾けながら、信頼関係作りにも努めていく。
II 確かな学力 学力向上Co	3 わかる授業づくり	⑤「意欲的に取り組んでいる」と答える生徒が <u>80%以上</u>	⑤授業公開などを通して、授業の工夫などを共有しながら指導力を高め、それぞれの教員が魅力ある授業作りができるようにする。	90.1	77.3 A	93.6	校内研修と連携しながら、各教科の特性をいかしながら魅力ある授業づくりのための指導の工夫を共有できるようにする。	92.9	76.2 A	96.8	引き続き校内研修と連携しながら、生徒が課題に対して追究したいと思えるような授業づくりをしていく。
		⑥「授業が分かる」と答える生徒が <u>80%以上</u>	⑥-1めあて、振り返りの時間を設定し、生徒が目的意識をもって授業に取り組み、何を学んだかを実感できるようにする。 ⑥-2学習の手引きを作成、活用し、どのように学習を進め、どのように評価するかを生徒や保護者に周知する。	91.4	70.6 A	96.9	「分かった」「できた」と実感できるような授業づくりに努める。また、振り返りの時間を継続して設定していくことで、生徒の学習の様子をみとり、その後の授業改善につなげていく。	91.1	69.2 A	96.8	保護者と生徒の差が大きいことが見受けられる。生徒の授業での取り組みの様子をはじめ、学習の取り組みの様子を学年通信や学力向上だよりなどで発信する。
	4 基礎的な知識・技能を定着させる授業づくり	⑦「自力で課題を解決できるようになった」と答えている生徒が <u>80%以上</u>	⑦ノートなどから生徒の学習状況を見取って、その状況を評価し、支援が必要な場合は実施する。	88.1	83.4 A	90.9	各教科の授業において、生徒一人ひとりの学習状況をみとり、その生徒に合わせた支援を継続して行う。	90.4	84.3 A	93.5	引き続き、各教科の授業において、生徒一人ひとりの学習状況をみとり、その生徒に合わせた支援を継続して行う。
	5 学習習慣の定着の工夫	⑧家庭学習や読書を自主的・計画的に平均1時間以上取り組める生徒が <u>80%以上</u>	⑧家庭学習ノートの活用法について、生徒や保護者に周知するとともに、担当が点検し、家庭での学習が定着するようにする。また、家庭学習ノートで模範となる取組をしている生徒を紹介し、生徒の意欲的な取組を促す。	65.6	55.7 B	78.8	4月に生徒に配布・配信してある学習の手引きを再度生徒・保護者に周知することで、家庭学習の実践例を紹介する。共通掲示板や学力向上だよりを活用して、生徒自身が意欲的に家庭学習に取り組めるように働きかける。	66.9	60.1 B	74.2	学年によっては家庭学習に取り組む日を設定している。授業内で教科の特性に応じた家庭学習のポイントを紹介するなどし、引き続き生徒自身が家庭学習に取り組めるような働きかけをしていく。

Ⅲ 豊かな心 生徒指導 教育相談	6 いじめのない温かい人間関係	⑨「学校は悩みやいじめの解消に努めている」と答えている生徒が <u>80%以上</u>	⑨毎月の学校生活アンケートを実施し、悩みを抱える生徒には二者面談などを行っていく。また、生徒の生活の様子を細かく見ていき積極的に声かけを行っていく。気になる生徒には教育相談部と連携を図って対応していく。	86.1	88.3	100	チャンス相談などを通して、生徒の様子を見守り、教師間での情報を共有しながら、悩みを抱える生徒の早期発見と支援を行えるような体制を整える。	87.0	90.1	100	引き続き、生徒の様子を見守りながらチャンス相談などを行うとともに、悩みを抱える生徒の早期発見や早期解決に努めていく。
		⑩学級が居心地がよいと感じている生徒が <u>80%以上</u>	⑩学級活動では生徒が主体となる活動の場を設定し、プラスの評価をしていく。また、エンカウンターやアサーショントレーニングを積極的に取り入れ、生徒同士が理解し合える人間関係を構築できるような授業実践を行っていく。	86.1	87.7	100	学級活動や学校行事などを通して、一人一人が居心地のよいと思える雰囲気作りを行ったり、ソーシャルスキルやエンカウンターなどの活動を通して、自己肯定感を高められるようにしていく。	87.0	89.8	96.8	Q-Uの結果分析などを生かしながら、よりよい人間関係作りを行っていきけるようにしていく。
	7 あいさつや時と場に応じた適切な言動をとることのできる生徒の育成	⑪進んであいさつをしたり、正しい返事ができる生徒が <u>80%以上</u> 。	⑪教師側が生徒の模範となるように、積極的に挨拶を行っていく。生徒会や生活委員による毎週の挨拶運動を継続していく。朝の健康観察では生徒一人一人呼名を行い、粘り強く返事をさせていく。	92.1	86.6	96.9	生徒主体の挨拶運動を継続して行い、教師が見本となり、挨拶を推進していく。返事の場合では粘り強く返事をさせていく。	89.4	81.0	83.5	引き続き、生徒主体の挨拶運動を継続して行い、教師が見本となり、挨拶を推進していく。部活動や地域活動においても、積極的に挨拶をするよう指導していく。
8 規範意識に基づいて判断し行動できる生徒の育成	⑫学校や家庭のきまりや約束を守って生活している生徒が <u>80%以上</u>	⑫教員間で共通理解を図り、教師側のぶれない指導を軸に良いことは褒め、悪いことは徹底して悪いと指導する態度を示す。職員全体で生徒が自ら考え行動できるような指導をしていく。	96.3	87.7	100	全職員で学校生活におけるきまりについて共通理解を図り、ぶれない指導を徹底し、複数の教員で組織的に対応していく。また、個に応じたきめ細かな支援もしていく。	93.1	86.8	100	引き続き、全職員で学校生活におけるきまりについて共通理解を図り、ぶれない指導を徹底し、複数の教員で組織的に対応していく。また、個に応じたきめ細かな支援もしていく。	
Ⅳ 進路・生き方 進路指導 特別活動	9 進路学習や指導態勢の充実	⑬学級活動における進路学習や総合的な学習の時間などの体験活動を通して自己の生き方を考えている生徒が <u>80%以上</u>	⑬生徒が主体的に自己の生き方や進路選択を考えられるような指導や働きかけを行う。また、地域人材の活用を推進していく。	78.6	83.7	90.6	生徒・保護者・教師、共に意識が高まってきている。1年次から3年間を見通して進路への意識を高められるような働きかけを充実させていく。	84.3	90.8	90.4	第1学年では進路適性検査を踏まえた職業調べ、第2学年では職場体験学習、第3学年では1・2年次を生かした進路設計を行うことができた。引き続き、系統的なキャリア教育を行っていく。
	10 将来の夢や希望を育むこと	⑭将来の夢や希望する進路について親子で話し合っている生徒が <u>80%以上</u>	⑭定期的に生徒、保護者と二者面談や三者面談を実施したり、全学年でキャリア教育に関する通信の発行やアンケートを実施したりしていく。定期テストの結果を親子で話し合う場面で、話し合う視点を与えていく。	70.2	82.0	87.8	全学年の廊下に進路だよりを掲示し、周知させたことで意識は高まってきている。引き続き、キャリア教育の授業や二者・三者面談で、親子で共に考えられるような指導していく。	75.9	86.5	83.9	三者面談や二者面談により、進路を考えるよい機会となった。夢カードなども活用しながら、学期初めや学期末、テスト実施時など、計画的・継続的に親子で話し合うよう働きかけていく。

V 健康・体力 保健・保体部	11 基本的生活習慣の定着	⑮朝食をとっている生徒が <u>90%以上</u>  ⑯十分な睡眠時間を確保している生徒が <u>90%以上</u>	⑮⑯保健委員会の活動を通して、生徒の実態を把握する。また、その結果をもとに、保健委員会の活動や学校保健委員会を通して、朝食や睡眠を重視し、生活リズムを整えられるよう指導していく。	91.3 A	96.0	75.7	保健だよりなどを活用して保護者へ情報を発信していく。	90.7 A	98.1	67.7	引き続き、保健だよりなどを活用してタイムリーな保健に関わる情報を保護者に発信していく。  保健委員を中心に行った睡眠に関する実験結果を生かし、課題の改善策を指導していく。
	12 体力向上	⑰体を動かす工夫をするなど運動（部活動・体育の授業を含む）や地域のスポーツ活動などに取り組んでいる生徒が <u>80%以上</u>	⑰生徒同士で運動を楽しみながら体力向上を図れるように、協働的な学びの場面を設定したり、グループ編制を配慮したりしていく。地域スポーツを周知したり、朝トレなどの自由参加の運動機会を設定したりしていく。	84.4 A	79.0	90.9	体育祭でクラスで協力する種目を増やし、昼休みなど運動する機会を作っていく。また、体育祭を機に、運動に対して苦手意識をもっている生徒が、運動することの楽しさを感じられるようにしていく。	82.3 A	75.8	90.3	体育祭を機に昼休みに運動をしている生徒が増えたり、学年行事として運動を行っている姿があった。3年生については、部活動の引退や受験等の理由で運動をする機会が減っているの、昼休みの体育館開放など生徒会と相談し、運動をする機会を増やしたい。
VI 安全確保 安全	13 学校の安全対策	⑱「学校は安全である」と感じている生徒・保護者が <u>80%以上</u>	⑱毎月の安全点検を行うとともに、日々の授業や部活動等で気がついた修繕箇所などはその都度報告をすることを促し、早急に対応していくよう努める。	84.5 A	93.7 A	97.0	生徒からは教室の床のささくれが危険と感じているようなので、定期的に点検しパテ補修していきたい。また、床ふきは、細心の注意を払うよう担任からの指導をお願いしていく。	91.6 A	96.0 A	100	安全点検を通して、危険と思われる箇所については、簡易的でもその場での補修を心がけていく。また、避難訓練などの意味について、各担任からしっかり伝えることを心がけていく。
	14 地域の安全対策	⑲安全に通学できるよう、交通ルールに気をつけて登下校できる生徒が <u>100%</u>	⑲日々の短学活や交通安全教室等の特別活動などを通して、交通安全の意識を高められるように、生徒に継続的に啓発していく。	99.2 A	99.3	90.9	正門付近は、横断の仕方の説明や立哨指導により、少しずつ改善されてきている。他の危険箇所では交通事故が発生していることから、引き続き様々な場面で注意喚起していきたい。	97.9 A	97.8	100	下校指導で気になったことは、すぐに全職員へ知らせ、その都度生徒へ伝え、指導することを心がける。交通事故等については、引き続き注意喚起していく。
VII 組織運営 教頭	1 学校経営の協働参画システムの構築	①「組織の一員としての自覚をもって担当の校務分掌に意欲的に取り組み、職員の理解や協力が得られている」と答えている教職員が <u>80%以上</u>	①分掌担当者への日常的な声かけを通して、連携体制を構築するとともに、分掌への自覚を高めていく。結果だけでなく、取組を称賛することでやりがいを持てるようにしていく。			100 A	それぞれの担当者が責任感を持って連携・協働して校務分掌に取り組んでいる。今後は、業務の効率化の視点をもつよう声かけしていく。			100 A	それぞれの担当者が責任感を持って連携・協働して校務分掌に取り組んでいる。今後は、業務の効率化の視点をもつよう声かけしていく。
		②「職員会議や学年会議等が情報交換や課題検討の場として機能している」と答えている教職員が <u>80%以上</u>	②会議の効率化を推進するために、事前に関係する職員と調整を図るよう指示する。また、C4thの連絡掲示板を活用し、随時必要な意見交換ができるようにする。			100 A	主任が先生方へ必要な情報を流すことで、会議の効率化が図られてきている。今後も業務の効率化をしていく。			96.8 A	主任が先生方へ必要な情報を流すことで、会議の効率化が図られている。今後も業務の効率化を模索していく。

	<p>③「教職員間の相互理解が十分なされ、信頼関係に基づいた教育活動を行っている」と答えている教職員が80%以上</p> <p>④「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に話し合える職場の人間関係ができています」と答えている教職員が80%以上</p> <p>⑤「教室内外の環境整備に向けて努力している」と答えている教職員が80%以上</p> <p>⑥「この職場は、教職員の服務規律確保への自覚が高い」と答えている教職員が80%以上</p>	<p>⑦職員が明るく元気に仕事ができるように、運営委員に關係する職員への目配り、気配り、心配りを依頼する。</p> <p>⑧人事評価の当初面談において、「公私ともに伝えておきたいことがありますか」などと投げかけ、気軽に相談できる体制を構築する。</p> <p>⑨よりよい環境が生徒の健全育成、職員の働きやすい職場づくりに繋がるという理念に基づき、教職員に教室環境（きれいな教室・安全な教室）の整備・充実を指示するとともに、管理職自ら率先して環境整備をしていく。</p> <p>⑩-1 毎月末に「服務規律チェックリスト10」で自己評価させ、服務を守る意識を高く保てるようにする。</p> <p>⑩-2 服務に係わる新聞記事があった場合、朝の打合せで情報提供していく。</p>	<p>97.0 A</p> <p>100 A</p> <p>100 A</p> <p>93.9 A</p> <p>96.9 A</p> <p>84.9 A</p> <p>94.0 A</p> <p>97.0 A</p>	<p>職員室で、校務について職員同士で積極的に意見交換できている。校務の効率化に向け時間を有効に使うよう声かけしていきたい。</p> <p>学年主任や中核となる教員により、風通しのよい職場環境ができていると考えられる。2学期はストレスもたまりやすいので、これまで以上に風通しのよい職場環境作りに努めていきたい。</p> <p>他者からの評価を踏まえると改善された部分も多いが、不十分な部分もある。昨年度実行した、専門委員会主導の校内美化活動を取り入れていきたい。また、長期休業中にトイレ清掃だけでなく校舎内の清掃も検討していく。</p> <p>職員の言動から服務規律確保の意識の高まりを感じる。引き続き、ストレスを抱えて、公務外での非遵行為などが発生しないよう風通しのよい職場づくりを進めていく。</p> <p>各学年の研修部を中心に、学年会などにおいて、「めあて」と「振り返り」の時間を大切に授業作りについて啓発していく。また、全体会や授業検討会などにおいて、生徒主体の授業作りについて考える機会を確保する。</p> <p>授業公開計画を作成し、同じ教科班による積極的な公開授業を推進することで、教科部会において活発な意見交換が行えるようにしていく。</p> <p>各種文書・データが整理された状態で管理されていた。そのため業務改善につながった点もある。</p> <p>個人情報が適切に管理されていた。紛失等もなかった。今後も管理の重要性について教職員の認識を高め続けていく。</p>	<p>100 A</p> <p>100 A</p> <p>96.8 A</p> <p>96.8 A</p> <p>100 A</p> <p>80.6 A</p> <p>96.8 A</p> <p>96.7 A</p>	<p>職員室で、校務について職員同士で積極的に意見交換できている。校務の効率化に向け時間を有効に使うよう声かけしていきたい。</p> <p>学年主任や中核となる教員により、風通しのよい職場環境ができていると考えられる。引き続き、風通しのよい職場環境作りに努めていきたい。</p> <p>他者からの評価を踏まえると改善された部分も多いが、不十分な部分もある。冬季休業中の清掃については、部活動ごとに分担していく。</p> <p>職員の言動から服務規律確保の意識の高まりを感じる。引き続き、ストレスを抱えて、公務外での非遵行為などが発生しないよう風通しのよい職場づくりを進めていく。</p> <p>全体会の場において、「はばプラⅡ」の活用を促したり、研修アンケートの結果を挙げることで、職員間で具体的な授業づくりの手段や方向性について、共通理解していく。</p> <p>授業公開の前に可能な範囲で事前検討や情報交換を行い、明確な視点を持って参観することで、短時間の参観でも効果的な授業改善につなげていく。</p> <p>引き続き、共有フォルダ内のデータを整理していく。引継ぎ時期も踏まえ、誰でも分かるような共有フォルダになるよう声かけし整理していく。</p> <p>引き続き、定期的に注意喚起しながら個人情報の適切な管理を呼びかけていく。</p>
2 学習指導・生徒指導の推進	<p>⑦生徒一人ひとりを大切に授業づくりや生徒との信頼関係づくりに努めている教職員が100%</p> <p>⑧「積極的に授業を見合い、互いに学び合うことによって自分の授業づくりに生かしていると答えている教職員が80%以上</p>	<p>⑦単位時間毎にねらいに即した明確な「めあて」を生徒全員に共有させるとともに、授業後半には「振り返り」の時間を設ける。また、「めあて」の設定においては、生徒が主体となるように工夫する。</p> <p>⑧授業検討部会内での授業公開を積極的に行い、指導に生かす評価を基に授業改善を図ることができるよう活発な意見交換を行っていく。</p>	<p>96.9 A</p> <p>84.9 A</p>	<p>各学年の研修部を中心に、学年会などにおいて、「めあて」と「振り返り」の時間を大切に授業作りについて啓発していく。また、全体会や授業検討会などにおいて、生徒主体の授業作りについて考える機会を確保する。</p> <p>授業公開計画を作成し、同じ教科班による積極的な公開授業を推進することで、教科部会において活発な意見交換が行えるようにしていく。</p>	<p>100 A</p> <p>80.6 A</p>	<p>全体会の場において、「はばプラⅡ」の活用を促したり、研修アンケートの結果を挙げることで、職員間で具体的な授業づくりの手段や方向性について、共通理解していく。</p> <p>授業公開の前に可能な範囲で事前検討や情報交換を行い、明確な視点を持って参観することで、短時間の参観でも効果的な授業改善につなげていく。</p>
3 公文書や個人情報等の情報の適切な管理	<p>⑨「各種文書・データ等は、校務分掌や担当ごとに適切に管理されている」と答えている教職員の80%以上</p> <p>⑩「個人情報が確実に保護され、管理が徹底されている」と答えている教職員が80%以上</p>	<p>⑨フォルダを統一の形式で分掌/学年分けしたり、C4thの掲示板・個人連絡機能を活用したりして、必要な担当に必要な情報を情報交換することができるようにする。</p> <p>⑩緊急連絡先・成績等の個人情報の所在をはっきりし、施錠を確実にを行う。また、毎月の服務規律確認に併せて個人情報に関する点検を行う。</p>	<p>94.0 A</p> <p>97.0 A</p>	<p>各種文書・データが整理された状態で管理されていた。そのため業務改善につながった点もある。</p> <p>個人情報が適切に管理されていた。紛失等もなかった。今後も管理の重要性について教職員の認識を高め続けていく。</p>	<p>96.8 A</p> <p>96.7 A</p>	<p>引き続き、共有フォルダ内のデータを整理していく。引継ぎ時期も踏まえ、誰でも分かるような共有フォルダになるよう声かけし整理していく。</p> <p>引き続き、定期的に注意喚起しながら個人情報の適切な管理を呼びかけていく。</p>